

みなとまちづくり生涯学習講座
シリーズ「海港都市『神戸』を語るPart 2」
〔第5回〕
現代史の中の神戸

園田学園女子大学未来デザイン学部教授 田辺真人氏

日 時 平成20年 2月17日（日）

午後 2時 開会

午後 3時20分 閉会

場 所 神戸築港資料館「ピアしっくす」

2月17日（日）、神戸築港資料館「ピアしっくす」にて、生涯学習講座「海港都市『神戸』を語るPartⅡ」の第5回目の講座が開催され、園田学園女子大学教授の田辺眞人氏が「現代史の中の神戸」をテーマに講演されました。

明治11年、旧天領兵庫県の兵庫町と神戸町、そして両者の間にあった坂本村の三つが合併して人口約35,000人の「神戸区」が誕生。明治22年に「神戸市」となりました。明治後期から大正にかけては、産業革命による技術革新や第1次世界大戦による海運界の好況により、湊川の付け替えや上水道整備、神戸港の第1～4突堤が完成するなど、神戸市域は急成長を遂げました。

その後、太平洋戦争の影響により、100万人を突破していた人口が38万人まで激減しますが、昭和20～30年代前半に西北神・東灘地域などを合併し、平地が少なく他の大都市と比べて狭小だった市域が拡大。さらに昭和40年代の高度成長期には、山あいを開いて住宅地を築き、その土砂で埋立地を造成するなどして大発展を遂げました。

当日は、神戸市の誕生、成長には欠かせなかった市町村合併にまつわる経緯など、神戸の興味深い歴史が大きな関心が寄せられました。



神戸市発展の歴史という切り口から
語っていただきました



第5回目講師の田辺眞人氏